

2022年度業務実績報告書

提出日 2023年 1月 19日

1. 職名・氏名 教授・水田 尚志

2. 学位 学位 博士（農学）、専門分野 水産学、授与機関 京都大学、授与年 平成5年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
化学Ⅱ（2単位 毎年開講） 2年生 （2022年度）
担当コマ数：15コマ

②内容・ねらい

生物体は多種多様な化学物質から成り立っているため、海洋生物資源学の分野における数々の事象を説明するためには化学的知識が必須となる。本講義では化学反応に関わる基礎を習得した後、各種分析法の原理について学ぶ。さらに生化学の理解に必要な不可欠な各種有機化合物の構造や特性などについて理解を深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

今年度は、e-ラーニングシステム（Google Classroom）を用いて講義資料の配信を行いつつ、全15回のうち14回は対面授業を行ったが、1回（4/20分）のみ同日2年次生が海洋生物資源学フィールド演習Ⅱ受講のためオンデマンド授業（Google Classroomに掲載した動画視聴および課題提出）とした。掲載した動画に関しては、Google Classroomに継続的に掲載することで事後に講義内容を確認できるようにした。

本学科では、学生間の「化学」の学力差が大きい。化学の素養がほとんどない学生に配慮して次のような工夫を行っている。

（1）基礎化学的内容の重視

基礎化学的内容および基礎分析化学的内容を前半に行い、後半は主に基礎的な有機化学の内容をとり入れている。特に基礎化学的部分の説明をきめ細かく行うことによって、化学の学力が低い学生ができるだけスムーズに分析化学的、あるいは有機化学的内容へと入っていくように配慮している。

（2）到達度の確認

各章末に「到達度の確認」という1問1答形式の問題あるいは計算練習を内容とするパワーポイントファイルを作成し使用している。これは、講義中に説明した内容のみならず、講義では説明しなかった発展的、補足的内容も織り交ぜることによって、反復による確認と発展的内容の修得をさせようとするものである。この「到達度の確認」を取り入れることによって学生とのコミュニケーションが増加し、意欲的に学習に取り組む学生が大幅に増えたものと実感している。

（3）「化学実験」との連携

後期に開講される「化学実験」と関連が深い2つの章（「物質と濃度」および「分析の基礎」）を「第1部」として講義の冒頭に配置することによって、化学実験の理解をより深められるよう配慮している。特に、「中和滴定」や「食品中の酸の定量」など計算を必要とする実験項目において、受講生の抵抗感が著しく軽減されたものとする。また、「化学実験」の項でも述べるとおり、「化学実験」の予習（予備計算）を本講義のレポートとして課すことで、化学を苦手とする学生でも抵抗なく実験に取り掛かれるようになった。続く「第2部」では、数値計算やデータ処理など化学実験でのレポート作成に関連が深い2つの章（「単位」および「数値の取り扱い」）を配置し、レポートの作成を円滑に進めることができるように配慮した。このように「化学Ⅱ」の講義に、「化学実験」の理解をサポートする機能を意識的に持たせることによって両科目の理解度を一層上げることにつながっている。

授業形態としては、授業内容をまとめたレジメ（空欄補充形式）を中心に進めたが、適宜プリントを用いて図解することにより、分析法の原理等を理解しやすいように配慮している。また、講義の予習・復習のためのコンテンツや講義の補足的な内容など授業の理解に役立つ情報をeラーニングシステム（Google Classroom）に掲載している。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
海と暮らし（2単位 毎年開講） 1年生 （2022年度）
担当コマ数：1コマ

②内容・ねらい（自由記述）
「海と暮らし」において「福井の魚」と題する講義1回（11月4日開催）を担当したが、この中では、越前ガニをはじめ、福井県にて漁獲される魚介類を紹介するとともに、いくつかの魚種についてタンパク質（主にコラーゲン）資源としての利用の実態や可能性について解説した。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
今年度は永平寺キャンパスにて遠隔授業と対面授業を兼ねたハイブリッド授業として開講することで、小浜キャンパスの学生や学外生も受講可能とした。さらに授業の録画も行い、高大連携事業の一環として、県内の高等学校へ授業動画を公開した。Zoomを用いて講義を進めたが、図や写真を多用することによって福井で漁獲される魚の特性をイメージしやすいように配慮している。また、本講義では水産加工残滓や外来生物など社会的にも関心の深いテーマに結び付けるとともに、日々の食生活における実体験や雑学的な要素を取り入れることによって抵抗感なく理解ができるよう工夫している。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
食品化学（2単位 毎年開講） 2年生 （2022年度）
担当コマ数：15コマ

②内容・ねらい（自由記述）
食品のもつ機能（栄養性、嗜好性、安全性、生体調節など）を学ぶためには、食品を構成する個々の成分がどのような特性を持つかを知ることが必要である。本講義では、魚介類の可食部（主として筋肉）を構成する主要成分（タンパク質、脂質、エキス成分など）がどこに分布し、どのような化学的特徴をもつのかを理解することを目的としている。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
本講義では、基本的に対面授業で行ったが、対面授業ができない場合については Google Classroom に動画を掲載するオンデマンド授業とした。動画は Google Classroom に継続的に掲載することで事後に講義内容を確認できるようにした。主に授業内容をまとめたレジメ（空欄補充形式）を中心にすすめたが、プリントを用いて図解することにより、魚介類の組織構造や構成成分の特性を理解しやすいように配慮した。Google Classroom 上には講義の予習・復習のためのコンテンツ、講義の補足的な内容など関連資料を掲載しているが、毎年受講生によるこれらの積極的な活用が見受けられる。中間試験を1~2回程度実施し、到達度の自己確認を行わせている。

また、後期に「一般成分分析」を主な内容とする「食品化学実験」が開講されるが、本講義における「第3章 一般成分」を「食品化学実験」の開講前に行うことで、同実験の理解が深まるように配慮している。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
化学実験（1単位 毎年開講） 2年生 （2022年度）
担当コマ数：8コマ

②内容・ねらい（自由記述）

海洋生物資源学科の専門領域では海洋生物資源の生産・利用・流通など多様な領域を扱うが、実験手法として化学分析法を用いることが多い。本実験では、実験室で安全に実験を行うための知識を修得するとともに、海洋生物資源学の分野で重要となる基礎的な化学分析の操作法と原理を理解することを目的とする。担当する主な部分は、「中和滴定と滴定曲線の作成」、「緩衝液の作成とその性質」および「容量分析（食酢中の酢酸の定量）」である。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

(1) 1班あたりの人数を4~5人として、班単位で実験の操作および実験データの解析を行うように指導している。その中で班員間のコミュニケーションを深めさせ、特定の班員に偏らずすべての班員が満遍なく実験を行えるように配慮している。授業の冒頭では「JABEE 学習教育到達目標 C-5（他者との協調）」についてスライドを用いて解説し、本実験と目標 C-5 との関連性を理解させるよう努力している。また、実験開始前には必ず班単位で打ち合わせを行わせ、その記録を「化学実験打ち合わせ記録」として提出させることで、班内でのコミュニケーションを促すとともに、チームワークの重要性を認識させている。

(2) e-ラーニングシステム（Google Classroom）の活用により、学生が講義資料のダウンロードをいつでも行えるよう配慮している。

(3) 本実験の受講者は「化学Ⅱ」の受講者とほぼ一致しているため、従前からこれらの科目の連携を図ることによって両科目の理解度をさらに深めるよう努めている。具体的には、「化学実験」の予習段階で必要な準備計算を「化学Ⅱ」でのレポートとして課した。その結果、計算を苦手とする受講生も抵抗無く実験に取り掛かれるようになった。さらに、「化学実験」にて行った実体験が「化学Ⅱ」にて学んだ理論の理解にも大いに役立ったと考える。また、「化学Ⅱ」における章の配置に工夫を加えたこと（「化学実験」に関連の深い章を冒頭に配置したこと）も「化学実験」の理解をさらに深めたと考える。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

基礎演習（1単位 毎年開講） 3年生（2022年度）

担当コマ数：15コマ

②内容・ねらい（自由記述）

本演習科目は、研究室分属をした3年生について研究分野に関連する文献を講読させ、討論することによって当該研究分野に関する理解を深めさせようとするものである。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

(1) 基本的には各受講生（3年次生）自身に文献の調査・選択をさせるが、研究室配属の上級生（4年生および大学院生）に文献の調査・選択のみならず、和訳の添削を行わせるなど受講生のサポートをさせることにより、研究室分属学生間のコミュニケーションを深めさせるように配慮している。

(2) 文献の紹介を行った際には、教員や他の学生からの質問に十分に答えられないことが多いが、答えられなかった質問について発表後に調査を行い、Google Classroomに回答を投稿させることで、より深く文献の内容を理解させるように促している。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

専攻演習（2単位 毎年開講） 4年生（2022年度）

担当コマ数：30コマ

②内容・ねらい（自由記述）

本演習科目は、4年生に当該研究分野に関連する文献を講読させ、討論することによって個々の文献の背景や内容の理解を深めさせようとするものである。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

(1) 基本的には各受講生（4年次生）自身に文献の調査・選択をさせるが、研究室配属の上級生（大学院生）に文献の調査・選択のみならず、和訳の添削を行わせるなど受講生のサポートをさせることにより、研究室分属学生間のコミュニケーションを深めさせるように配慮している。

(2)文献の紹介を行った際には、教員や他の学生からの質問に十分に答えられないことがしばしばあるが、答えられなかった質問について発表後に調査を行い、Google Classroom に回答を投稿させることで、より深く文献の内容を理解させるように促している。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
卒業論文 (4 単位 毎年開講) 4 年生 (2022 年度)

②内容・ねらい (自由記述)
本科目では、当該研究分野における研究に取り組み、論文を完成させることを目的とする。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)
研究室で行うことになる基本的な実験操作を 3 年次の仮分属時から学ばせることにより、上級生とのコミュニケーションを深めさせ、さらに 4 年次の卒業論文研究にスムーズに移行できるように配慮している。また、研究の進行状況について要旨およびプレゼンテーションファイルを作成させ発表させる中間報告を数回程度実施している。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
食品機能化学 (2 単位 毎年開講) 博士前期課程 1・2 年次 (2022 年度)
担当コマ数 : 8 コマ

②内容・ねらい (自由記述)
タンパク質は生体を構成する主要な高分子化合物であると同時に、食品の成分としても極めて重要な位置を占める。本講義では動植物の各組織に分布するタンパク質の中で重要なものを取り上げ、それらの基礎的性状および機能特性についての理解を深めることを目標とする。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)
講義の前半部分では食品機能ならびにタンパク質に関する概説を行うとともに、後半において筋肉タンパク質、結合組織タンパク質、植物タンパク質、乳および卵タンパク質の機能に関する最新の研究内容を解説した。これらと並行して、食品の二次機能 (嗜好性) に関連する英語文献を配布して、これを教員と受講者で輪読し、重要な点については他の参考文献も参照しながら解説した。最終回には、講義内容および教材として用いた英語文献に関する試験を行い、この結果と輪読時の発表状況などをあわせて評価を行った。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
海洋生物資源利用学特論 I (1 単位 隔年開講) 博士前期課程 1・2 年次 (2022 年度)
担当コマ数 : 4 コマ

②内容・ねらい (自由記述)
海洋動物組織を構成する各種成分の中から現在利用に供されている、もしくは将来利用が期待される成分を取り上げ、文献講読等を通じてこれらの分析手法や機能特性などに関する最新情報を解説する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)
講義の冒頭部分で結合組織タンパク質 (主にコラーゲン) の特性に関する一般的な講義を行い、その後、魚介類の調理による物性変化に関する文献を取り上げ、その講読を行った。特に、物性変化に対する結合組織タンパク質の役割について重点的に理解させるよう努めている。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
海洋生物資源利用学専攻演習 I (2 単位 毎年開講) 博士前期課程 1 年次
(2022 年度) 担当コマ数 : 30 コマ

②内容・ねらい（自由記述）

海洋生物のもつ有用成分の抽出、機能、利用方法等に関連する諸問題を解決するための基礎を修得させる。さらに、国内外の最新の情報を迅速に取り入れる能力および必要な情報を整理して発表し、討論する能力を養成する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

各自の研究テーマに関連する学術論文を検索・熟読させるとともに、プレゼンテーション能力や自主性の向上を目的として、当該論文の要旨およびプレゼンテーションファイルを作成させ、講義時にそれらを資料として発表させる。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

海洋生物資源利用学専攻演習Ⅱ（2単位 毎年開講） 博士前期課程2年次
（2022年度） 担当コマ数：30コマ

②内容・ねらい（自由記述）

海洋生物のもつ有用成分の抽出、機能、利用方法等に関連する諸問題を解決するための基礎を修得させる。さらに、国内外の最新の情報を迅速に取り入れる能力および必要な情報を整理して発表し、討論する能力を養成する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

各自の研究テーマに関連する学術論文を検索・熟読させるとともに、プレゼンテーション能力や自主性の向上を目的として、当該論文の要旨およびプレゼンテーションファイルを作成させ、講義時にそれらを資料として発表させる。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

海洋生物資源利用学専攻実験Ⅰ（4単位 毎年開講） 博士前期課程1年次
（2022年度）

②内容・ねらい

海洋生物資源の栄養機能、嗜好性機能、生体調節機能などに関連して、その社会的背景や意義・必要性をふまえて研究課題を設定して研究に取り組み、課題を解決する能力を身につける。また、修士論文発表会での発表や論文の取りまとめを通じて、プレゼンテーション能力を高める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

研究の進行状況について年に数回程度要旨およびプレゼンテーションファイルを作成させ発表させている他、学会において各自の研究内容を積極的に発表させ、外部からのコメントや批判を取り入れながら研究を進める。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

海洋生物資源利用学専攻実験Ⅱ（4単位 毎年開講） 博士前期課程2年次
（2022年度）

②内容・ねらい

海洋生物資源の栄養機能、嗜好性機能、生体調節機能などに関連して、その社会的背景や意義・必要性をふまえて研究課題を設定して研究に取り組み、課題を解決する能力を身につける。また、修士論文発表会での発表や論文の取りまとめを通じて、プレゼンテーション能力を高める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

研究の進行状況について年に数回程度要旨およびプレゼンテーションファイルを作成させ発表させている他、学会において各自の研究内容を積極的に発表させ、外部からのコメントや批判を取り入れながら研究を進める。

(2)その他の教育活動	
①2019 年度入学生学年担任としての業務	
・2022 年度前期オリエンテーション、2022 年 4 月 4 日	
・2022 年度後期オリエンテーション、2022 年 9 月 26 日	
②大学院専門特別講義 I における外部講師の選定・依頼（細井准教授と協力）	
・北海道大学大学院 水産科学研究所 技術専門職員・水産学博士 清水 裕 氏 演題「水産物アレルギーの特定と解析」、2022 年 11 月 4 日	
③高大連携に関連する公開講座	
・海と暮らし第 4 回「福井の魚」の記録動画を県内高校向けに公開した。	
④非常勤講師窓口教員	
・化学 I（2021 年度～）	

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり） Purification, characterization and cDNA cloning of a lectin from the brittle star <i>Ophioplocus japonicus</i> Imamichi Y, Hikosaka K, Kawai N, Koubaku N, Hosoi M, Mizuta S, Yokoyama Y, Yoshinaka R, Comparative Biochemistry and Physiology Part B: Biochemistry and Molecular Biology, DOI: 10.1016/j.cbpb.2022.110757	【 1 本】
③その他論文（査読なし）	【 本】
④学会発表等	
1) マナマコ真皮の熱収縮機構に関する研究、令和 4 年度日本水産学会春季大会（2022 年 3 月）、 水田尚志・小澤晴・細井公富・横山芳博.	【 1 件】
⑤その他の公表実績	
1) ふくい農林水産まるごとフェスタ、「マリンコラーゲンの現在」（ポスター出展）、2022 年 11 月 12 日（土）・13 日（日）、福井県産業会館.	【 1 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
①共同研究（株式会社リナイス） 600 千円 研究代表者（2022 年度） 「サケ鼻軟骨の II 型および XI 型コラーゲンを構成するサブユニットの性状解析」	
(3)特許等取得	
①特許登録 （昨年出願した特許申請に関して本年下記の特許登録となった。）	
1) コラーゲン含有組成物の製造方法及びコラーゲン単離物（出願番号：特願 2021-015258、公 開番号：特開 2022-118611、特許番号：特許第 7138873 号、登録日：令和 4 年 9 月 9 日）、発 明者：中野英春、鳴海正樹、佐々木裕幸（株式会社リナイス）、水田尚志（福井県立大学海洋 生物資源学部）	

②特許申請

(本年、新たに下記の特許申請を行った。)

1) 魚類軟骨由来のコラーゲン含有組成物 (特願 2022-113413)、申請日: 2022 年 7 月 14 日、発明者: 中野英春、鳴海正樹、佐々木裕幸 (株式会社リナイス)、水田尚志 (福井県立大学海洋生物資源学部)

(4)学会活動等

①学会での役職

- ・日本水産学会会員 (昭和 63 年 4 月～現在に至る)
- ・日本生化学会会員 (平成 4 年 4 月～現在に至る)
- ・日本比較生理生化学会会員 (平成 4 年 4 月～現在に至る)
- ・日本食品科学工学会会員 (平成 22 年 4 月～現在に至る)

②論文の査読

2022 年度においては下記に示す 6 件の査読を行った。

「 」内に学術雑誌の名称、()内に審査依頼があった年月を記載する。

- 1) 「Journal of the Science of Food and Agriculture」(2022 年 4 月)
- 2) 「Fisheries Science」(2022 年 4 月)
- 3) 「Fisheries Science」(2022 年 6 月)
- 4) 「Journal of the Science of Food and Agriculture」(2022 年 6 月)
- 5) 「Fisheries Science」(2022 年 11 月)
- 6) 「Fisheries Science」(2022 年 12 月)

5. 地域・社会貢献活動

①国・地方公共団体等の委員会・審議会

- 1) 「杉田玄白賞」審査委員会委員 (2022 年 4 月～)
 - ・審査会 (2022 年 9 月 28 日、小浜市役所)
 - ・表彰式・記念講演会 (2022 年 12 月 3 日、小浜市まちなかの駅・旭座)
- 2) 全国農学系学部長会議会員 (2022 年 4 月～)
 - ・第 147 回全国農学系学部長会議 (2022 年 11 月 2 日、オンライン開催)
 - ・第 147 回全国農学系学部長会議第四常置委員会 (書面開催)
- 3) 全国公立大学協会農学部会会員
 - ・第 45 回全国公立大学協会農学部会 (2022 年 11 月 11 日、オンライン開催)
- 4) 原子力発電小浜市環境安全対策協議会常任委員 (2022 年 4 月～)
 - ・第 86 回常任委員会および委員研修会 (2022 年 10 月 27 日、働く婦人の家)
- 5) 福井県水産研究評価会議委員 (2022 年 4 月～)
 - ・水産共同研究施設「かつみ水産ベース」開設式参加 (2022 年 4 月 25 日、福井県水産試験場、企画・先端研究室)
 - ・令和 4 年度水産試験研究評価会議 (2022 年 8 月 24 日、福井県立大学小浜キャンパス、本会議において座長を務めた)
- 6) ふくい水産振興センター副センター長
 - ・ふくい水産振興センター通常総会参加 (2022 年 6 月 21 日、福井県水産会館 6 階大ホール)
- 7) 高大連携協議会委員
 - ・令和 4 年度高大連携協議会 (2022 年 7 月 7 日、福井県立大学小浜キャンパス)
 - ・福井県立若狭高等学校 SSH 研究発表会講師 (2023 年 2 月 12 日開催予定)
- 8) 若狭地域産学官水産連絡会議幹事代表 (2022 年 4 月～)
 - ・令和 4 年度若狭地域産学官水産連絡会議幹事会 (2022 年 6 月 20 日、福井県立大学小浜キャンパ

ス)

- ・令和4年度若狭地域産学官水産連絡会議総会（2022年7月26日、福井県立大学小浜キャンパス）
- 9) 全国大学水産実験所長会議会員（2022年4月～）
- 10) 福井県立若狭高等学校マイスター・ハイスクール運営委員
 - ・マイスターハイスクール事業 第3回運営・推進委員会（2023年3月15日開催予定）

②国・地方公共団体等の調査受託等

③（公共性の強い）NPO-NGO 法人への参加

④（兼業規程で業務とみなされる範囲内での）企業等での活動

1) 株式会社リナイス

- ・サケ皮膚からのタンパク質の回収方法に関する技術協力（2020年12月より）
- ・アミノ酸分析に関する技術指導（2020年12月より）
- ・ヒドロキシプロリンの比色定量に関する技術指導（2020年12月より）

⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等

1) 県立大学小浜キャンパスを育てる会への参加

- ・県立大学小浜キャンパスを育てる会総会および講演会への参加（2022年6月16日、小浜市働く婦人の家3階ホール）

2) 福井の水産研究シンポジウム、パネルディスカッション「水産業へのIoTの活用事例」座長（2023年2月18日開催予定）

⑥公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講

1) 「海洋生物の有効利用 - タンパク質資源としての活用-、Zoomを用いたオンライン開催、2022年6月4日

2) 夢ナビ関連の講座

- ・ミニ講義動画「海洋動物コラーゲンの基礎と利用」の公開、2022年8月
- ・夢ナビライブ（2022年10月15日・16日）：合計3回のオンラインセミナーを実施

3) 「福井の魚」（高大連携による公開講座）、動画によるオンデマンド開催、2022年11月4日永平寺キャンパスにて収録

⑦その他

1) 福井県立大学オープンキャンパス

(1)対面型

- ・2022年8月7日（日）福井県立大学小浜キャンパスにて開催

(2)オンデマンド型

- ・2022年7月15日（金）動画撮影を行い、その後特設ページにおいて公開

(3)オンライン交流会

- ・2022年8月21日（日）Zoomにより開催

6. 大学運営への参画

(1)補職

・海洋生物資源学部長（2022年4月～）

【主な業務内容】

- 1) 教育研究審議会、全学ミーティングおよび部局長会議への出席
- 2) 学部・学科運営体制
 - ・学部・学科内の各種委員会、担当者の人員選定、構成を行った。
- 3) 学部教授会の運営
 - ・定例学部教授会（年間11回）の議長を務めた。

・大学院生物資源学研究科長（2022年4月～）

【主な業務内容】

- 1) 研究科教授会および学科長会議の運営
 - ・上記会議の議長を務めた。
- 2) 博士論文審査関係書類の改訂・整備などを行った。

・海洋生物資源臨海研究センター長（2022年4月～）

【主な業務内容】

- 1) 臨海研究センター運営連絡会議および臨海研究センター運営会議の運営
 - ・上記会議について議長を務めた。
- 2) 設備・備品に関する必要な修繕箇所・物品について整理し、優先順位付けを行った。

(2)委員会・チーム活動

①全学委員会

- ・教育研究審議会委員
- ・学生支援委員会副委員長
- ・大学院委員会委員
- ・遺伝子組換え実験安全委員会施設管理者
- ・教育研究委員会委員
- ・入試本部委員
- ・新型コロナウイルス感染防止対策チーム会議委員
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策実施本部会議委員
- ・輸出管理委員会委員
- ・福井県立大学学内競争資金審査委員

②学部委員会等

- 1) 学部将来計画委員会
- 2) 学部予算委員会
- 3) 高大連携担当
- 4) 教員評価委員会
- 5) 臨海センター運営連絡会議
- 6) 新学科プロジェクトチーム会議

③海洋生物資源学科委員会等

- 1) 学科将来計画委員会
- 2) 2019年入学生学年担任
 - ・修学カウンセリング等の教育活動を行った。
- 3) JABEE委員会委員
- 4) 備品更新費配分担当

(3)学内行事への参加

1) 全学ミーティングへの参加

- ・第1回 (2022年4月27日)
- ・第2回 (2022年7月27日)
- ・第3回 (2022年9月28日)

2) オープンキャンパスへの参加

- ・オンデマンド型 (7月15日動画撮影)
- ・対面型 (8月7日)
- ・オンライン交流会 (8月21日)

3) 福井県立大学創立30周年記念小浜キャンパスホームカミングデー

- ・県大創生フォーラム パネルディスカッションの座長として参加

(4)その他、自発的活動など
